

R.I. District2610 . ROTARY CLUB OF UOZU

魚津ロータリークラブ 会報誌

2010 - 2011 年度 R会長 レイ・クリンギンスミス
2010---2011 年度 魚津R.C会長 宮本 汎



第 2743回 例会報告

2010年 9月 3日

ゲストならびにビジター紹介 本日はありません

誕生日祝 9月4日 辻(浩)君 誕生日を祝っていただき、ありがとうございます。明日で59才になります。これでしばらく奥さんと同じ歳になりますので、同等に扱ってもらえそうです。向こうはどう思っているかわかりませんが私は「仲良くやっている」と思っています。本日はありがとうございました。



会長挨拶 またまだ暑い日が続いていますが、みなさん体調はいかがでしょう？老夫婦世帯は「クーラーも扇風機も嫌いだ！」と言って32～33度の部屋で我慢しておられますが、みなさんくれぐれも体に気をつけて下さい。夏休みは楽しく過ごされましたか。私も山へ行ってきました。1回目は片貝南又から猫又山へ挑戦しましたが、失敗に終わりました。2回目は箕輪から馬場島へ抜け、さらに猫又方面へ車で10分くらい進み魚津



市の最上部・最深部から「死ぬ思い」で「自分の歳も忘れて」若い人たちと猫又山へ登山しました。毛勝・釜谷・猫又の三山は海から見ると山から見るとでは景色が違います。三山がなだらかに進んでいきます。しかしそこまで行くのが大変で普通「胸突き八丁」と言いますが、ここは「あご突き八丁」で登るときは這って行かなければなりません。魚津市は「奥が深い」、ここからは後ろ立山連峰がものすごくきれいに見えますが、ここへは登らない方がいいと思います。春夏秋冬楽しんで下さい。

幹事報告 ガバナー事務所より クラブ定款第4条「綱領」翻訳問題についてのアンケート調査ご協力をお願い
金沢東RCより 週報・活動計画書
魚津市より 魚津市美術展覧会後援のお願い
9月例会案内 9月10日 ゲスト卓話 魚津市企画政策課主幹 稲村 修氏
9月17日 卓話 杉野君 若井君
9月26日(日) 早朝例会 海の駅屋気楼 午前6時30分～
9月SAA補助 朝野君、谷君、羽田君 よろしく願いいたします。

出席報告 本日の出席者 29名 出席率 87.87% 欠席者 4名
メイクアップ済み 中島久義君。
2741回メイクアップ 中島久義君
2741回修正出席率 90.90% 93.93%

ニコニコボックス 吉森さん 今朝東京から帰ってきて疲れていますが、RCで元気をもらいたと思います。
松田君 何となく雨」が欲しくて！
野澤幹事 8/6ベルギー短期交換留学生の迎えと、8/20インターアクト年次大会に行ってきました。2回の例会に若井前幹事に助けていただき、ありがとうございました。
宮本会長 残暑の候、お体を大切に下さい。

委員会報告 「ロータリーの友」のポイント説明 広報委員 関口さん

縦書き2ページ目の「世界の水問題は日本の水問題」について説明します。

地球温暖化・二酸化炭素の問題は水の問題である」と指摘されています。21世紀は洪水・干ばつ・水質汚染・海面上昇などが生態系に影響を与え、毎年180万人の乳幼児が汚染された水が原因で命を失っています。日本では113年前の気象台開設以降、最高の暑さを記録しています。富山県には水に恵まれた川がたくさんありますが、片貝川の水が最近全くなっています。昔は真夏でもたくさん水があり、私はその水で泳いで育ってきました。



米の水は確保されているそうですが、通勤途中で片貝川を見ても「カラカラ」です。魚たちはどこへ行ったのかと思っています。みなさん6ページまで読まれて何か教えていただきたいと思います。

もう一点は、子供たちへの影響についてですが、保育園児は体温調節ができないので、冷房が必要であり、今はほとんどの保育園にクーラーが設置されましたが、小学校・中学校にはまだ冷房が入っていません。暑くて倒れる子もいます。魚津高校では私が評議員の時に冷房をお願いして設置されました。魚津市も日本中も地球温暖化の影響で暑くなっていますので、小・中学生へ冷房を入れてあげたいとささやかな願いを抱いています。

職業奉仕委員会 若井副委員長

来月、職業福祉の観点でどなたかを表彰したいと思います。みなさんの会社の中で、真面目に一生懸命働いている方で表彰してあげたいと思われる方がおられましたら、推薦状を提出していただき表彰したいと考えています。
よろしく願いいたします。



8/ 20インターアクト年次大会に野澤幹事と愛宕さんに参加していただき、ありがとうございました。

8/ 6に魚津工業高校の環境科学部の生徒が活動内容を報告してくれました。それに対しみなさんからいろいろなご意見がありました。それで彼らも刺激を受けたのではないかと思います。環境に関する活動は、地域にどれだけ還元できるかがおもしろい点の一つなので、これからも意見を出していけるような話し合いができればいいと思います。



私が毎月読んでいる雑誌で「ニュートン」があります。その中で高校生が身近な環境を調査研究している様子を連載していますが、高校生が楽しそうにやっていて学問の楽しさを感じているのだなあと思います。将来おもしろい仕事をしていくのではないかと期待して読んでいます。しかし、現実には受験勉強という「学問」とは違うことに頭を使っているケースが相変わらず多くて、少しでもそういう機会を与えてやると子供たちにはいいんじゃないかと思っています。

現在、歯学部と歯科衛生士の専門学校で教えていますが、学生は「勉強はするけれど、いろんなことに興味を持たない」というか「試験のために勉強する」という学生が多くいます。講義をしていても「ポイントはどこか、試験にはどこが出るか」といった質問が多く、新しい論文を紹介しても「それは教科書に出ていないから試験には出ない」と言って興味を示さない。勉強しなくても何にでも興味を示す子供は、将来伸びているので、どうしたら学生の気持ちを学問の方へ持っていけるか、ということをいつも考えています。

観察する目と感じる心を育ててやると、発想が生まれてきます。そうすると学問のおもしろさがわかってきて、観察の目と心が磨かれていき、さらに質の高い発想が生まれてきます。そういった機会を少しでも増やしてやりたいといつも考えています。その一つとして「キャリア教育」があります。日経ビジネスオンラインに次の内容が載っています。文科省ではキャリア教育を生徒への勤労観・職業観を育てる教育と定義していますが、これに違和感を感じている人がいます。その人の考えは「人間は生まれた土地・時代・生来の気質・家庭の環境などに大きく左右される。子供は成長しながら自らの可能性を育み大人へ脱皮する。それをサポートするキャリア教育がのっぺらぼうの一般論でいいはずがない。一人一人に対応して決め細やかに行なわれるべきである。」というものです。

RCメンバーの豊富な経験とそれに基づく知恵を工業高校の生徒に伝えていくことができれば、もしかすると環境科学部のようなところから何らかの変化が生まれてくるかもしれません。そしてそういう学校の楽しさを知ることができ、新しい発見や開発・設計などに興味を持つ生徒が出てくれば、何らかの生きがいを持たせることができるのではないかと思います。

以上